

QTaaSでいつもの開発にも潜む 「モッタイナイ」をなくしませんか？

モッタイナイ 事例1

最終連携テスト前に品質を上げるため、外部連携システムの検証環境を準備しましたが、サーバ利用料金やライセンス更新費など、維持するための費用負担が増大しました。



QTaaSの答え

テスト期間のみサービスを利用することで
ランニングコスト削減。

モッタイナイ 事例2

システム開発では、当たり前のようにテストに掛ける工数を含めていますが、その多くは使い捨てされており、再利用されていません。

準備期間やコストは全体の約2割を占めています。

※ 弊社実例により算出



QTaaSの答え

開発用システム・テストパターン
一本化で工程をシンプルに。
開発の資産として保管し次期開発で再利用。



いつもの開発にも潜む
「モッタイナイ」
をなくしませんか？

「モッタイナイ」をなくしたその先に

QTaaSは、

ALM (Application Lifecycle Management) の中の、開発工程で利用するサービスです。

開発工程にて1度作成したテスト資産は、次のサイクルの中でも繰り返し利用されることで、再テスト時の「ムダ」をなくすることができます。

また、開発工程を効率化することは最終的にシステムのデリバリースピードを早めることに繋がるとクオリカは考えます。



システム開発におけるALMイメージ

QUALICA
Testing as a Service

お問合せ先：クオリカ株式会社

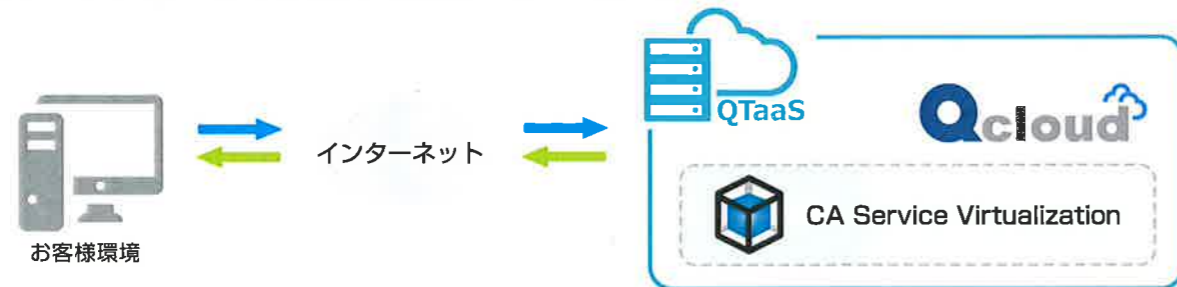
Tel : 03-5937-0771 email : qtaas-service@qualica.co.jp

URL : www.qualica.co.jp/service/it/qcloud/qtaas/

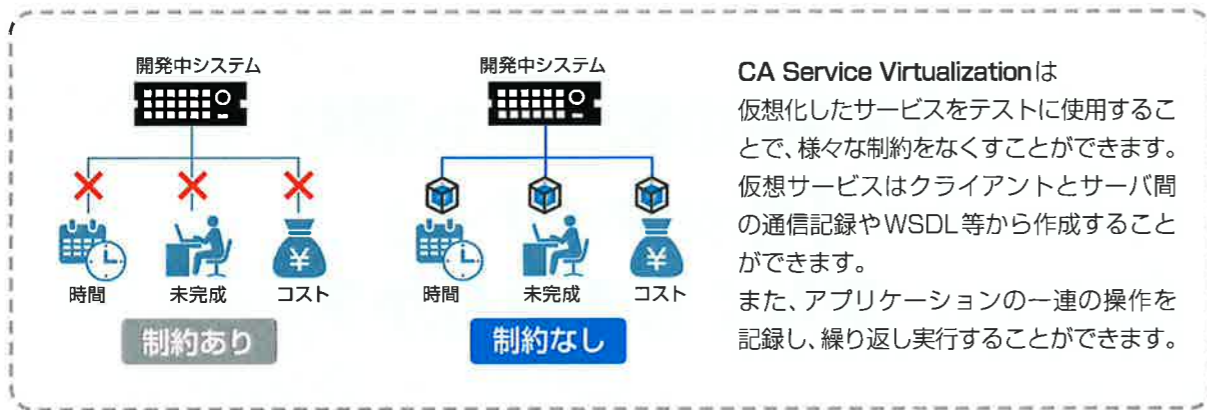
QTaaS

ふるまい仮想化による制約の排除で
テスト工程でのメリットを得る

QTaaS (QUALICA Testing as a Service)は、CA Technologiesの製品であるCA Service Virtualizationを、クオリカデータセンタを利用したIaaSサービスであるQcloudに載せて、お客様にご提供するサービスです。

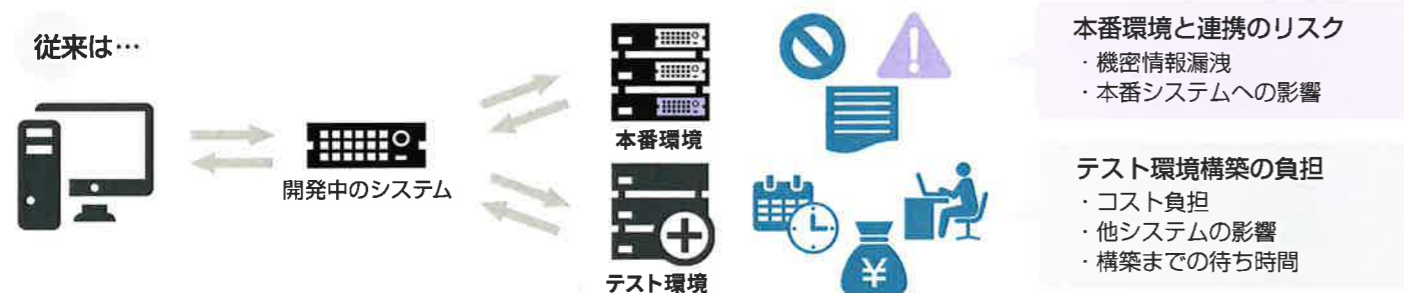


CA Service Virtualization とは？



情報漏洩リスク排除と環境構築の負担軽減

Service Virtualizationで外部接続先の振る舞いを仮想化することは、本番環境・テスト環境への接続を不要にします。テストのための環境準備にかかる負担を減らし、情報漏洩のリスクをなくすることができます。



QTaaSを利用すると？

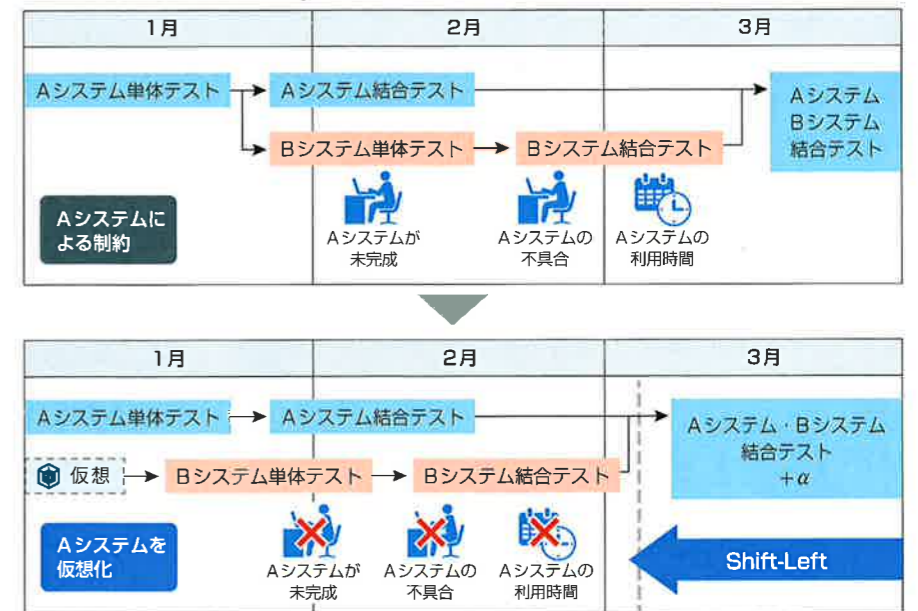


単体 / 結合テストの工程期間を2割 短縮

CA Service Virtualizationで仮想化されたサービスをスタブやドライバとして使用することで、前のテストが完了していなければ次のテストに進めない、といった制約はなくなります。

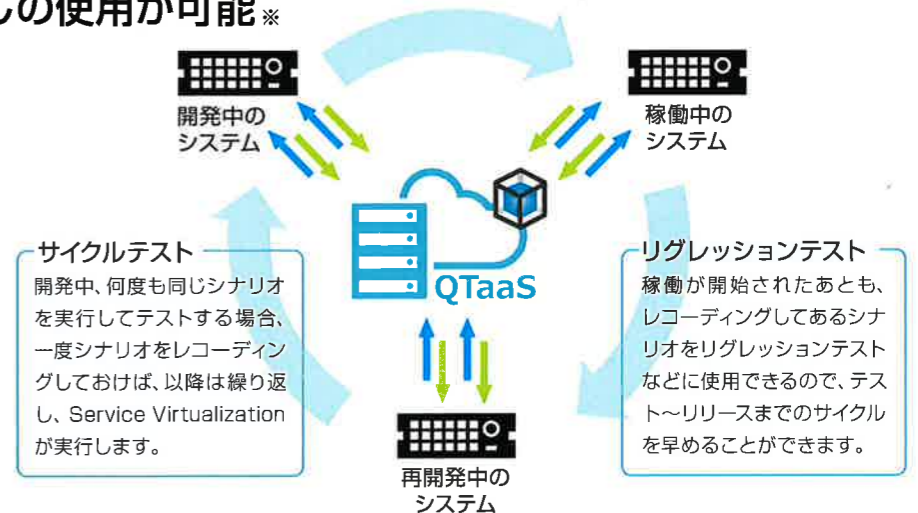
また、外部連携先を仮想化することで、連携先の環境利用時間に左右されることなく、テストを実施することができます。

テスト期間のあらゆる「待ち」時間を大幅に削減することができるので、テストケースを追加して、性能検証の時間に充てることも可能です。



テストシナリオの繰り返しの使用が可能※

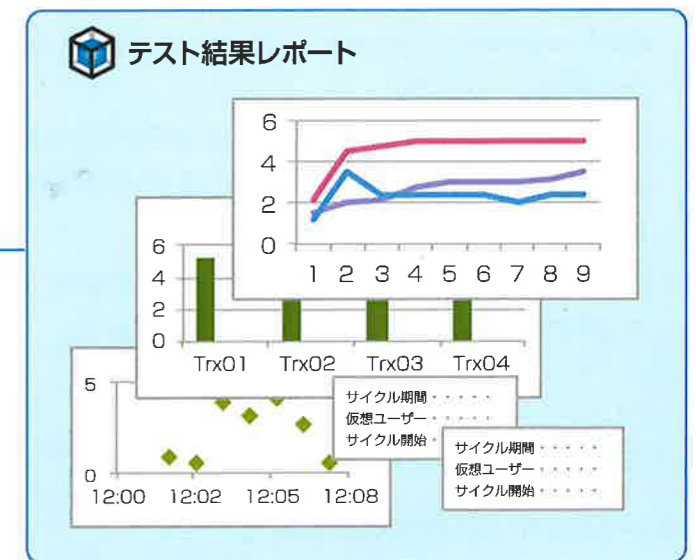
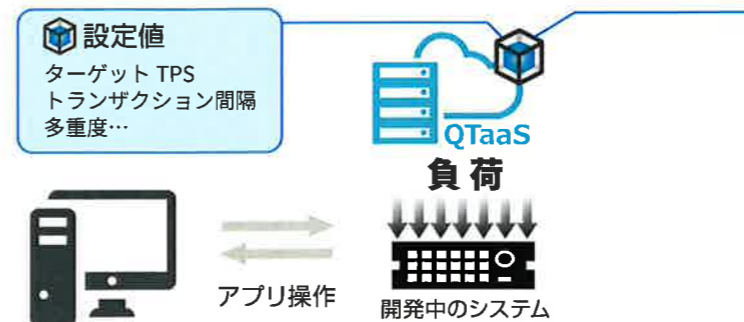
Service Virtualizationは人がシステムを操作した「ふるまい」を覚えることができます。覚えた「ふるまい」を再生することによって、Service Virtualizationが人の代わりにシステムの操作を実行することができます。「ふるまい」を1つひとつシナリオテストとして保存しておくことで、開発時に実施するサイクルテストや、本番稼働以降のリリースで行うリグレッションテストに利用することができます。



負荷テスト実施と結果レポートの出力※

Service Virtualizationから開発中のアプリケーションに対して、インスタンス数などを想定する値にして負荷をかけることができるので、負荷テストツールとしても使用可能です。

負荷のかかった状態でアプリを操作した場合のレスポンス結果などを、レポートにして確認することができます。



※ QTaaSの基本サービスには含まれておりません。CA Service Virtualizationの該当機能のオプション利用については、サービス内容・費用共に別途ご相談となります。